

入笠山 (1955m)

毎日新聞旅行 18日

今年3回目の雪山であるが一番寒かった。前週の飯盛山と位置的にもそれほど離れていないし標高差も300m程度の差である。前週があまりにも楽しかったので甘く見た。第一今回はゴンドラを使って1790mまで行ってしまうのであるから、いわば幼稚園の遠足並みである。しかし道は最初からバリバリの氷でありアイゼンの歯も簡単には立たない。一步一步踏み込みながら歩く。幸い急登と急降下がないのと風の強さがそれほどでもなかったのになんとか歩けたが、すっこんすっこん転んでいる人もいた。頂上では写真を撮り終わったら早々に引き上げてしまった。この山は1965年6月と1982年3月に続いて3回目である。前2回とも富士見駅から歩いたので、それなりの距離も標高差もあった。だからなめてしまうのかもしれない。テルモスも持って行かなかった。当初はスノーシュー登山とうたわれていたのであったが、1週間前くらいに雪が少ないのでアイゼンを持ってきてくださいとの電話をも



らった。そしたらヤーマタという人がいっぱい出て、16人いた人が6人になってしまったということだ。私の方としてはバスの座席が2座席分もらえたのでうれしかった。スキー場の駐車場はケッコウバスや車が多かった。だけどゲレンデには人は少なかった。しかし人工降雪機で作ったのであろうが、大したもんだ。ゲレンデ以外には雪なんかちょぼちょぼだったんだから。

ツアーリーダーはもはやレジェンドともいえる存在になった花岡さんである。おそらく今ではまいたびの最長老であろう。最近に行く山のレベルも下げていると言っていた。俺より3つ若いはずであるが、向こうは案内役でこちらはお客さんであるから、同列に扱っては失礼か。サブはミズまいたびの朝妻さん、昨年9月からツアーリーダーをやっているというが3回会った。

ジジイは那須から来たという人と二人だけ、あとはババアといったら怒られそうなのは何人かいた。

時間的には余裕だらけであったので、花岡教室が何回も開かれた。アイゼン歩行のやり方やシラカバの樹皮を燃やした火の付け方などいろいろあった。為になりました。